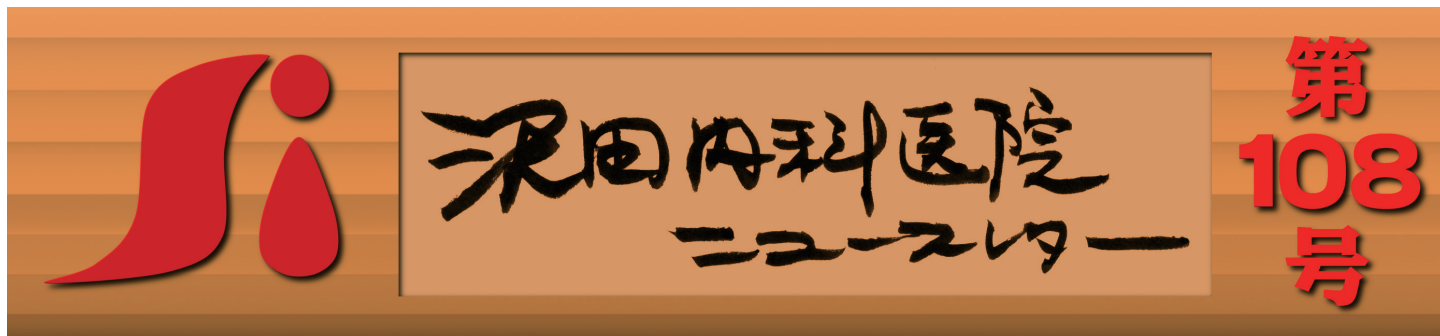




## 木村友美さんが弘前市の保健師に！

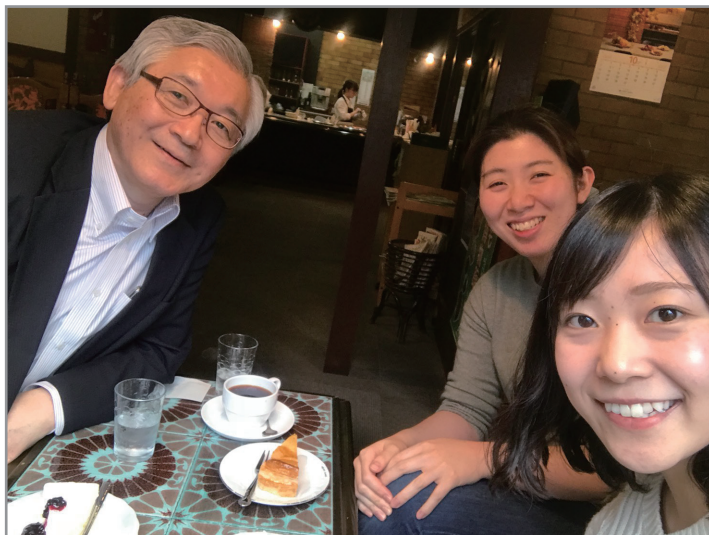
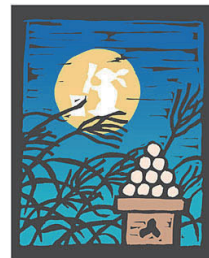
弘前市医師会看護専門学校を卒業し、秋田県立衛生看護学院へ進学した木村友美さんが弘前市の保健師として採用されることが決まりました。友美さんは看護学科在学中の3年間、沢田内科医院で働いていました。

保健師になるためのコースは1年間です。弘前市の保健師採用試験の一次試験は何と6月でした。4月に保健師になるための勉強を始めて2ヶ月で採用試験とはどういう意味なんだろうと思いました。が、とにかく受けてみるしかありません。

幸いにも一次試験を通過し、8月の二次試験も無事通過し採用内定をもらいました。友美さんは平川市民ですから平川市役所にも願書を出していたのですが、さっそく辞退の連絡を入れました。

友美さんは、看護専門学校に入学した頃から保健師になることを希望していました。沢田内科医院は、胃がん検診や大腸がん検診に力を入れています。また、私自身が医師会で弘前市の検診に深く関与していましたので、友美さんが沢田内科医院で働いていたことが、保健師になるという気持ちをさらに強くしたのではないかと思います。

弘前市医師会看護専門学校は、専修学校になりましたので、大学への編入が可能になりました。友美さんは成績優秀ですので、青森県立保健大学への編入も可能でした。しかし、保健大学の保健師コースには定員があり、入学しても必ずしも保健師になれるわけではありません。



採用が決まり報告に来た友美さん(右端)  
同期の優香さん(中央)と一緒にカレーを食べてからコーヒー

友美さんに、進学する目的が、「大学を卒業すること」なのか、「保健師になること」なのかを確認したら、保健師になることが目的だとはっきり言いましたので、秋田県立衛生看護学院へ進学することに決めました。

秋田では、少人数での実習をともなう勉強で、通常の講義が終わった後もみんなが残って勉強しているようです。保健師というはっきりした目標を持つグループですので、勉強がまったく

苦痛にならず楽しんで勉強しているとのことでした。

友美さんは、看護専門学校在学中に放送大学卒業のための単位を取得していました。在学期間4年を満了す来年3月にめでたく放送大学も卒業します。頑張り屋さんです！

## 弘大医学部クラス会

昭和52年3月に弘大医学部を卒業してから41年が過ぎました。今年は愛媛県松山市でクラス会を行い、同期生22人が集まりました。

数年前に、それまで4年ごとに開いていたのですが、そろそろ2年ごとにしようという話になりました。ところが、何と2年ごとではなく、毎年開

いているのです。去年は、函館でした。その前は、八戸、東京、長崎、沖縄でした。各地から集まりますので、クラス会当日だけでなく、前日夜に前夜祭も開きます。

長崎で開いた時のクラス会はまるで2泊3日の旅行でした。30人程集まりましたが、本番のクラス会より2人少ないだけの方が前夜祭に集まりました。翌日はほぼ全員が参加して、浦上天主堂、グ



ラバー邸、稲佐山、とバスで市内観光です。もちろん、夜はクラス会本番です。この間、ずっとみんな一緒でした。

今回は11月3日、松山市で小児科を開業している友人が幹事となり、道後温泉での開催となりました。

私は11月3日に羽田経由で松山に行きました。羽田空港で誰かいないか探しましたが、誰も見つかりません。搭乗間際になり、何と長崎からのクラスメイトとばったり！ 乗り換えの関係で、長崎から羽田へ来て、そこから松山へとのことでした。

たまたまホテルも同じで、クラス会の前に松山城へ行きました。松山城はお城も大きいのですが、石垣がすごい！ 弘前城の石垣とは比べ物にならない！ この時、インドのタージマハルへ行った時のことを思い出しました。宮殿のように見えるあの大きな建物は実はお墓なのです。ほぼすべてが大理石でできていて、インド中だけでなく周辺の国々から集められたのだそうです。1600年代ですから、運ぶのは象と人です。その時のコンダクターの話では、大理石を運ぶために、何千人という人が犠牲になったのだということでした。松山城の石垣を見た時に、きっとかなりの人が犠牲になったのかなあと思いました。

クラス会は、歴史のありそうなホテルで行われました。近況報告をして、あっという間に過ぎてしまいました。会の終わりに、来年は仙台で開くことを決めて解散しました。私は二次会の後、12時前でしたが、開業している小児科医院を訪ね、こういうところで働いているんだなあと感慨に浸り、ホテルへ帰りました。

翌日は、「坂の上の雲ミュージアム」を訪ねました。司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』を中心に松山全体を紹介するミュージアムです。日露戦争で活躍した秋山好古、真之兄弟を中心に、正岡子規、夏目漱石など愛媛に関係する人たちのことが展示されていました。

その後、弘前と松山を結びつけている子規記念博物館へ行きました。子規は新聞「日本」で俳句を発表しただけでなく、結核で床に伏して亡くなるまで、陸羯南の世話になっています。このことは1つのコーナーで紹介されています。

秋山兄弟も正岡子規も貧しい下級武士の出身で、海軍兵学校などお金がかからない学校を選んで世の中に出ています。夏目漱石は東京での教授選挙に落選して松山中学の先生になったようです。松山市の人口は52万人、街を歩いていても歴史の重みを感じられるところでした。



65歳から70歳と高齢者になってしまったクラスメイト 女性の3人は一緒に参加した奥様方です



## 正岡子規について新しく知ったこと

ホトトギスというのは、口の中が赤く、鳴くと血を吐いているように見えるようです。



このことから、子規は21歳で最初に咯血をした後、俳号を「ホトトギス」にしたとのことです。新聞「日本」の記者として日清戦争からの帰り、子規は2度目の大量咯血をします。子規は、最後の3年間は、結核が背骨を侵す脊椎カリエスで身動きができなくなり寝たきり状態だったようです。しかし、新聞「日本」での文学活動は続け、34歳で亡くなる二日前まで書き続けた随筆「病牀六尺」はここで生まれています。

夏目漱石は、子規が主宰する俳句雑誌「ホトトギス」に「吾輩は猫である」と「坊っちゃん」を発表して文壇デビューします。子規はたくさんのペンネームを持っていますが、「漱石」もその一つでした。夏目漱石は、子規から「漱石」というペンネームをもらったのだそうです。夏目漱石は胃潰瘍に悩まされて何度も吐血をして、最期も胃潰瘍が原因だったという話は有名ですが、肺結核にも罹っています。

子規と夏目漱石は東京で知り合っています。2度目の咯血をした子規は、故郷の松山で療養しますが、ころがり込んだのは夏目漱石の下宿だったようです。夏目漱石はペンネームだけでなく、子規から結核ももらったのでしょうか？100年も前のことですから、感染源を特定するのはむずかしいでしょう。



松山城のマドンナと一緒に

夏目漱石の「坊っちゃん」の中に出てくるマドンナ、と言っても今の若い人たちには古典を読むようなものらしい。100年も前のことですから当然かな。

ちなみに、「漱石」というのは、昔の中国で、「石に枕し流れに漱（くちす）ぐ」と言うべきところを、「石に漱ぎ流れに枕す」と言ってしまい、誤りを指摘されると、「石に漱ぐのは歯を磨くため、流れに枕するのは耳を洗うためだ」と言ってごまかしたという故事に由来することは、高校時代に習いました。自分の失敗を認めないで、屁理屈を並べて言い逃れをすること、負け惜しみが強いということです。

## 澤田美紀子さんは消化器超音波検査士を目指している

沢田内科医院の看護師は、ただ看護師として働くのではなく、専門的な知識や技能を持って患者さんに接するようにしています。日本糖尿病療養指導士は、糖尿病に関して専門的な知識と技能を持って療養指導を行います。この資格がなければ療養指導ができないわけではありませんが、看護師のレベルアップのために資格取得を勧めています。

超音波医学会には超音波検査士という制度があり

ます。いろいろな部位別に資格認定がされていますが、その一つとして「消化器超音波検査士」があります。肝臓、膵臓、胆のう、腎臓など腹部臓器を超音波で検査するものです。

開業当初は、私一人で超音波検査と内視鏡検査を行っていました。外来診療をしながらの検査だったので、外来診療に差し支えるようになりました。そこで、宇野洋子さんに超音波検査士の資格を取得してもらい、今ではほとんどの超音波検査を宇

野さんに任せています。

看護師も超音波検査士になることができます。現在は、澤田美紀子さんがトレーニングを続けています。主に宇野さんが指導していますが、もちろん私も関与しています。沢田内科医院では1年間に約2,000件の腹部超音波検査を行い、いろいろな病気の診断をしていますので、トレーニングには十分な件数と内容です。

消化器超音波検査士になるには、実際に検査を行いその経験事例を提出すること、そして、試験に合格する必要があります。超音波検査の経験例は十分過ぎる位ですが、臨床現場ではほとんど使用しないであろう超音波の物理的な知識や計算問題

が出題されます。この部分が看護師にはちょっとしたバリアで、美紀子さんも苦労しています。



美紀子さんが超音波検査士の資格を取得すれば、次は、相馬知香さんが本格的にトレーニングを開始します。これまでの糖尿病療養指導士に加え、高血圧・循環器病予防療養指導士の勉強も開始します。これらの資格を目指すことで、沢田内科医院のレベルが上がり、患者さんにさらに優れた医療サービスを提供できるようになりますので、ご期待下さい。

## 看護専門学校の講義

私は弘前市医師会看護専門学校では学校長を勤めています。大きな行事は、入学式、看護の誓い式、卒業式の3つです。他に学期の終わりには学生に対しての訓示、入学試験、学校の運営に関する会議、その時々に出てくる問題の解決、資格試験や国家試験対策など、たくさんの仕事があります。

実際に講義も行っています。准看護学科1年生には血液の入門的な講義を4時間しています。これは、血液が体の中でどのような働きをしているのかを教えています。2年生には英語の講義を12時間しています。社会人で入学し、しばらく英語から遠ざかっている学生もいますので、マザー・テレサの生涯を簡単な英語で教えています。市販されていえるテキストをさらに簡単に書き換え、英単語214語でこんなことが表現できるんだということを感じてもらっています。

英語を通して、日本人と英語を母語とする人たちの考え方の違い、文化の違いを知ってもらうようにしています。また、日本語を話す場合と、英語を話す場合に喉、舌、唇の動きがどう違うのかも知ってもらい、実際に真似をするようにしているのですが、どうしてもみんなの前だと恥ずかしさが出てきてしまうようです。

看護学科1年生では、生命倫理7時間、統計学10時間、血液・免疫・感染症5時間の3つの講義を受け持っています。

生命倫理は、いのちをどう考えるかをみんなで考え

るのが主目的です。医療従事者ですので、いのちに向き合います。正解がないことですので、いのちをどのように考えるかのきっかけになるようにしています。具体的には、「いのちの終わりは誰が決めるのか」、「いのちの始まりはいつからか」、そして、「臓器移植」の3つのテーマです。

統計学は、専門の先生にお願いしていたのですが、学生のレベルに合った教え方ができる統計の素人の私が教えた方が学生のためになるのではないかと始めました。実際は、むずかしい数式は使わないで、医療現場で統計学がどのような役割を果たしているのかを教えています。そして、統計に必要な、将来医療現場に必要な数学も教えています。中学校や高校での数学の復習に時間を費やしています。

血液関連では、一つひとつの病気のことを覚えるよりも、生きて行くための血液の役割、免疫や感染症でどのようにして私たちは外敵から自分のからだを守って生きているのかを講義しています。

3年生には、12月から2月にかけて看護師国家試験対策のための講義をしています。90分の講義を最低で12回、この他にも時間を見つけて国家試験のためのアドバイスをしています。弘前市医師会看護専門学校の国家試験合格率は県内でもトップクラスです。ここ2年連続で1人が不合格になりましたが、合格率はほぼ100%を維持しています。

